

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 陸前高田市国際交流協会

1. 事業の趣旨・目的

在住外国人に日本語教育を行うことにより、地域になじみやすく、快適な生活を送ることができる環境づくりに繋げる。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
開催していない。				

3. 日本語教室の開催について

(1) 講座名

日本語教室

(2) 開催場所

陸前高田市役所仮庁舎3号棟大会議室

(3) 学習目標

簡単な日常会話から、「読み、書き」ができるまでの、生活に必要な日本語を学ぶ。

(4) 使用した教材・リソース

身体プリント、カレンダー、チラシ、フラッシュカード等

(5) 受講者の募集方法

市役所の発行する広報に記事を掲載。

(6) 受講者の総数 12 人

(出身・国籍別内訳： 中国 3人, 韓国 2人, フィリピン 5人, アメリカ 1人,
オーストラリア 1人)

(7) 開催時間数(回数) 40 時間 (全 20 回)

(8) 日本語教室の具体的内容

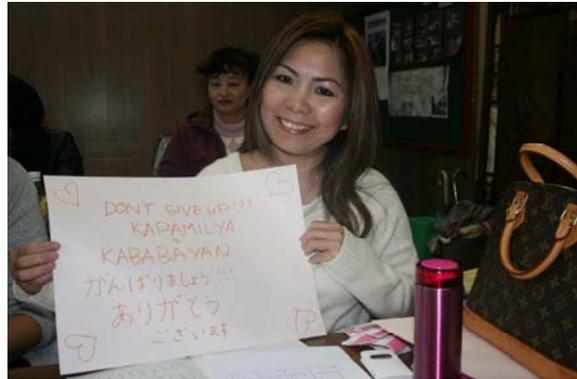
回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語 (人)	教授者・補助者人数	内容
①	9月29日	2時間	4人	韓国国・韓国語 (2人)	教授者 1人	震災時の状況

	19:00～21:00			中国・中国語 (2人)		を話す
②	10月6日 19:00～21:00	2時間	4人	韓国・韓国語 (2人) 中国・中国語 (1人) フィリピン・タガログ語 (1人)	教授者1人	震災時の状況を話す
③	10月13日 19:00～21:00	2時間	6人	韓国・韓国語 (2人) 中国・中国語 (2人) フィリピン・タガログ語 (1人) オーストラリア・英語 (1人)	教授者1人	具合が悪い時の言い方
④	10月20日 19:00～21:00	2時間	10人	韓国・韓国語 (2人) 中国・中国語 (2人) フィリピン・タガログ語 (4人) オーストラリア・英語 (1人) アメリカ・英語 (1人)	教授者1人	病院にて
⑤	10月27日 19:00～21:00	2時間	7人	中国・中国語 (2人) フィリピン・タガログ語 (5人)	教授者1人	日時に関して読み取る
⑥	11月10日 19:00～21:00	2時間	5人	韓国・韓国語 (2人) フィリピン・タガログ語 (3人)	教授者1人	日時に関して読み取る
⑦	11月17日 19:00～21:00	2時間	5人	韓国・韓国語 (2人) フィリピン・タガログ語 (3人)	教授者1人	買い物をする
⑧	11月24日 19:00～21:00	2時間	7人	韓国・韓国語 (1人) 中国・中国語 (3人) フィリピン・タガログ語 (3人)	教授者1人 補助者1人	買い物をする
⑨	12月1日 19:00～21:00	2時間	4人	中国・中国語 (1人) フィリピン・タガログ語 (3人)	教授者1人 補助者1人	食事をする
⑩	12月8日 19:00～21:00	2時間	4人	韓国・韓国語 (1人) 中国・中国語 (1人) フィリピン・タガログ語 (2人)	教授者1人	道を聞く
⑪	12月15日 19:00～21:00	2時間	3人	中国・中国語 (1人) フィリピン・タガログ語 (2人)	教授者1人	道を聞く
⑫	12月22日 19:00～21:00	2時間	1人	中国・中国語 (1人)	教授者1人	家にあるものの名前を覚えよう
⑬	2月9日 19:00～21:00	2時間	4人	中国・中国語 (1人) フィリピン・タガログ語 (3人)	教授者1人	道を教える
⑭	2月16日 19:00～21:00	2時間	2人	中国・中国語 (1人) フィリピン・タガログ語 (1人)	教授者1人	使い方いろいろ

⑮	2月23日 19:00～21:00	2時間	1人	フィリピン・タガログ語 (1人)	教授者1人	使い方いろいろ
⑯	3月1日 19:00～21:00	2時間	1人	フィリピン・タガログ語 (1人)	教授者1人	街で見かける日本語
⑰	3月8日 19:00～21:00	2時間	1人	フィリピン・タガログ語 (1人)	教授者1人	街で見かける日本語
⑱	3月15日 19:00～21:00	2時間	3人	中国・中国語 (1人) フィリピン・タガログ語 (2人)	教授者1人	街で見かける日本語
⑲	3月22日 19:00～21:00	2時間	1人	中国・中国語 (1人)	教授者1人	日本語で歌おう
⑳	3月29日 19:00～21:00	2時間	4人	中国・中国語 (1人) フィリピン・タガログ語 (3人)	教授者1人	春になると

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)







4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

今年度は、東日本大震災による影響で、日本語教室が当初の予定より5ヶ月も遅れて開始したこと、学習者を取り巻く状況及び教室の環境も激変したことにより、「日本語教室」に限って語れる達成状況を話すまでに至ってはいない。しかし、学習者にとっては震災後の心の拠り所として機能した。

(2) 学習者の習得状況

震災を経験して、字を学びたいという要求があり、日常生活でよく見かける、生活のための「文字」学習を取り入れた。常に目にする文字ということで習得は早く、自信に繋がっている。

(3) 日本語教室設置運営の効果, 成果

震災後初めての教室で、学習者の一人が「ここに来ればみんなに会えると思った。」と語った。日本語教室は単に日本語を学ぶ場所ではなく、自国の家族と離れ、異文化の中で暮らす学習者の心の拠り所となっている。同じ国の出身者でなくとも、気持ちは繋がるのである。

被災地外国人として、各地から講演要請のあった元学習者から、作文の添削依頼があったり、介護の講習を受講中の元学習者から、レポートの書き方指導依頼があったりと、今年度の受講生の人数には入らないが、「日本語教室」で繋がっている方々がいる。これらこそ教室継続の成果といえる。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果等

11月3日、被災地を訪れたボランティアの窓口となった方から、炊き出しの手伝いの声がかかった。震災の影響で、出かけることも、集まる機会もなくなった学習者にとって格好の課外授業となった。夜の教室には来ることができない方の顔も見えた。子供は子守担当に預けて、調理とおしゃべりに専念する。見ず知らずの日本人との会話も楽しんだようだ。ボランティアは静岡からの方々に、アクセントの違いにも気づくことができ、いつもとちがう顔と話すことで、「伝わる」ことの自信と、聞いてくれる人がいるという安心感を得ることができたと思う。

(5) 改善点, 今後の課題について

① 現状

講師が一人という状況であるため、レベルの異なる学習者が数名来ると、複式にならざるを得ず、対応に苦慮する。マンツーマン指導が望ましいと思われる。子育て中の方が子供を連れてくるのは構わないが、周囲に気遣い、子供に気を取られて学習に集中できない現状がある。

② 今後の課題

講師の増員、託児サポーター等への協力依頼

③ 今後の活動予定, 展望

日本語サポーター養成講座により、講師の増員を図る。

課外授業として地域住民との交わりを持ち、「異文化交流」に努める。